

作業療法の内容

<急性期>

病気の発症後や手術後から運動・練習を行います。

安全面が最優先の時期のため、病状や全身状態を確認し、医師や他職種と連携しながら、その時々に必要な運動・練習を行なっています。



医師と協同して
病室から運動・練習を行う



可能な限り早くからトイレに行けるように
効率的な方法を練習する

<亜急性期～回復期>

病状が安定してきましたら、作業療法室にて上肢や手の運動、日常生活動作の練習を積極的に行ない、生活範囲の拡大を図ります。



自分で食事が出来るように
補装具や自助具を検討する



腱板断裂手術後、
パンフレットで理解を深め
装具着脱の自立を促す



心臓外科手術後、
心電図や術部の安定・安全を
確認しながら着替えの練習を行う

<社会復帰時>

在宅復帰や復職される前には、より応用的な機能・能力などを評価・練習し、より良く社会復帰が出来るように支援しています。



在宅復帰される前の調理実習



ご自宅に入浴できるように福祉用具の使い方の指導

<その他>

多種多様な検査道具や治療・運動機器を揃えており、入院中の患者さんのほか、外来でいらっしゃる患者さんにも、運動・練習を行なっています。



日常生活には欠かせない「手」の機能の評価と運動



安楽な姿勢での作業療法士による関節運動



各自に適した運動・練習を提供